

## シライ電子工業 (コード 6658・ジャスタック)

業績推移(連結) (予想は会社発表分。は赤字。配当性向は連結ベース。単位:百万円、%、円)

決算期	売上高		経常		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率	利益	伸び率	純利益	配当		
07.9: 第2Q	17,262	+14.9	324	-56.3	21.5	-	-	1.88
08.9: 第2Q	15,638	-9.4	202	-	19.1	-	-	-
08.3	32,994	+3.9	8	-99.1	70.7	0.0	0.0	0.02
09.3(予)	31,500	-4.5	200	-	17.9	0.0	0.0	-

### 両面・多層板を中心にプリント配線板事業を展開

**特色**...両面・多層配線板が主力製品のプリント配線板メーカー。国内外に生産拠点をもち、国内の生産管理センターと中国の現地法人とが連携して、顧客の製品仕様や品質・納期などに関する情報を管理するなど、顧客のきめ細かいニーズに対応している。同社製品は、カーエレクトロニクス関連、デジタル家電関連、電子応用関連、アミューズメント関連、ホームアプライアンス関連(冷蔵庫・エアコンなど)、通信・事務機器関連など、幅広い産業分野で採用されている。

### 外観検査機好調だがデジタル家電関連など需要鈍化

**減収、経常赤字に**...09年3月期の第2四半期(4月1日~9月30日)は、薄型テレビを中心としたデジタル家電関連需要が北京五輪の終了とともに鈍化し、これまで好調に推移してきたカーエレクトロニクス関連需要も米国市場の販売不振の影響で低迷。円高も加わり、売上高は前年同期比9.4%減となった。国内では原材料価格・製品仕入価格の一部を売価に転嫁でき、外観検査機の販売も好調だったものの、中国での競争激化によって持分法適用会社の損益が大幅に悪化。また、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」を適用したことにより、これまで「販売費および一般管理費」に計上していた中国での開業費を「営業外費用」に計上したため、経常損益は2億200万円の赤字(前年同期:3億2,400万円の黒字)に、純損益も2億6,700万円の赤字(前年同期:2億9,900万円の黒字)となった。

### 今期の通期も減収、経常赤字の見通し

**最終損失は大幅縮小へ**...09年3月期の下半期について、会社側では世界的な景気後退によるプリント配線板業界に対する悪影響が国内外で強まると予想。主力のカーエレクトロニクス関連では米国市場での販売不振が見込まれ、デジタル家電関連についても個人消費の冷え込みから受注が軟調に推移しそう。08年7~9月に需要回復をみせていたホームアプライアンス関連などの受注も、景気悪化による住宅建設や設備投資の減退によるプリント配線板全体に対する需要の減少から落ち込む見通しで、今期の通期については売上高が前期比4.5%減、経常損益も2億円の赤字となりそう。最終損益(2億5,000万円の赤字。前期:9億8,800万円の赤字)については、前期の減損損失計上(15億6,400万円)がなくなるため赤字額は大きく縮小する見込み。なお、プリント配線板事業について、国内では低収益商品からの撤退・縮小(選択と集中)で収益改善と営業力強化などを、海外では受注・管理体制の強化、自社工場生産品の確保と立上げ準備を図る。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。